

# 平成26年度 施政方針 予算概要

3月定例会市議会において市長が表明した平成26年度の市政運営の基本となる考え方を施政方針と予算概要について紹介します。

その後、国の補正予算に対応するため、平成25年度3月補正予算において平成26年度事業の一部を前倒しして計上し、これを実施することにより、効果的で切れ目のない予算執行に取り組んでいます。

## ① 防災対策事業

と定め、既存事業の再検討や見直し、経常経費対前年度同額の目標を設定して、予算編成を行いました。

その後、国の補正予算に

対応するため、平成25年度3月補正予算において平成26年度事業の一部を前倒しして計上し、これを実施することにより、効果的で切れ目のない予算執行に取り組んでいます。

## 予算編成の 基本的な考え方

震災後の経済悪化から回復傾向にあるものの、市税の大幅な減少、生活保護費や医療費の増大等により、厳しい財政状況が続いています。

平成26年度も歳入の確保が困難なことが予想される中、社会保障関連経費の増加、更なる防災対策の強化、そして給食センター・新庁舎建設事業等の大型事業に取り組んでいかなければなりません。健全な財政を維持しつつ、政策課題を解決していくため、予算編成の重点事業を

## ② 経済活性化事業

と定め、既存事業の再検討や見直し、経常経費対前年度同額の目標を設定して、予算編成を行いました。

その後、国の補正予算に対応するため、平成25年度3月補正予算において平成26年度事業の一部を前倒しして計上し、これを実施することにより、効果的で切れ目のない予算執行に取り組んでいます。

## 防災対策事業



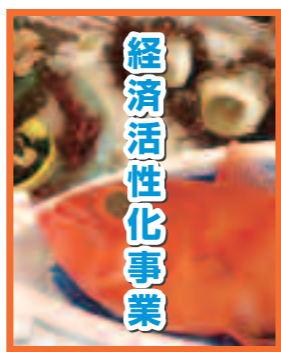
様々な災害から市民の生命・身体・財産を守るため、本年度より新たに地域防災課を創設し、危機管理体制の整備・強化に取り組みます。

具体的には、静岡県第4次地震被害想定で示されている人的被害を今後10年間で8割減少させることを目指し、「下田市地震・津波対策アクションプログラム2013」に掲げる各種事業を推進します。

避難路・避難場所などを明記した津波避難計画を策定し、各地域の避難場所等についての周知、避難計画で位置付けられる防災上必要な施設・設備の充実を進めるとともに、避難困難者の解消にも努めていきます。

自主防災会の更なる防災対応力の向上、支援体制づくりを援助し、地域防災の要である各自防災害会の充実に向けて、官民一体となって取り組んでいきます。

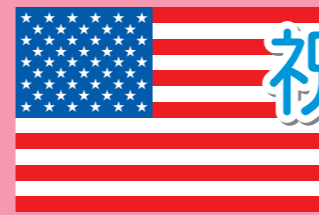
## 経済活性化事業



平成26年度は、昨年度に策定した観光まちづくり推進計画に掲げた「美しい里山づくり」、「世界一の海づくり」、「30カラース」、「美味しいまちづくり」の4つのプロジェクトを本格的に実践します。

本計画は、観光を農林水産業、商業、製造業に至るすべての地域産業の魅力づくりと位置付けており、その実現のために、下田の魅力を発掘し、磨き、発信するという一連の行動を様々な主体が連携して行っていく予定です。

多くの産業が低迷する状況を打破するため、商工会議所や商店会連盟等と連携し、地域資源を活用した地域のブランド化を推進してまいります。また、住宅リフォーム振興事業を引き続き実施し、建築業関係者への民間工事の発注増による経済波及効果を期待し、市内経済の活性化と市民の住環境の向上に努めます。



# 祝下田開港160周年



## 記念事業のご紹介

2014年、下田市は開港160周年の節目の年を祝い、下記の事業を行い、下田の歴史的価値を広く皆さまと共有するとともに、一人でも多くの人々にお越しいただき、下田の魅力を味わっていただきたいと考えています。

## 「下田開港160周年」記念 イベント開催しませんか

10年に一度のこの貴重な機会を捉え、2014年に皆さまが開催予定の各種イベントに「下田開港160周年」の冠をつけていただけますよう、ご協力をお願い申し上げます。

市では、冠をつけたイベント等を、「下田開港160周年」の事業の一つであるとし、広報しもだや市公式ホームページ等にて事業概要を掲載し、事業をPRしていきます。

ただし、減免や補助金等の財政的支援や人材派遣等の人的支援は、原則としてできかねますので、あらかじめご了承願います。

問合せ先 総務課秘書広報係 ☎2211

## 日米友好の木 「ハナミズキ」記念植樹



植樹中の  
下田中学校生徒の皆さん

米国から寄贈された「ハナミズキ」100本を下田公園、敷根公園及び市内小中学校等に植樹しました。(2月に植樹済)

なお、記念植樹式は、5月17日(土)の黒船祭記念式典にて行います。

# 航快 路国

Vol.16



本年は開港160周年にあたり、大きな記念事業は計画しておりませんが、年間を通じ、場面場面でこの歴史を再認識し、祝していきたいと思えます。

下田のまちに対し、ペリー・ブチャーチン・ハリスはその自然と人の織り成す景観を褒め称えています。

当時は語る文章には、風土や住民について好印象を抱き、下田より温かな気候は世界のどこにもないと絶賛し、人々は楽しく暮らし、食事にも着物にも困らず、家は清潔で日当たりもよくて気持ちが良いと記述されています。

また、進歩した開化の様相を呈し、清潔と健康に留意し

たちまちづくりは合衆国よりはるかに進んでいる、住民はみな日本人独特の鄭重さと控え目であるが快活な態度を持っているとも記されています。

当時、下田は、半島の先端に位置し、天城の山々を背にし、陸路からは閉ざされ不便な地域でありながらも、海の玄関口、下田港を有し、江戸航路、風待ち港として、交流の拠点、南伊豆地域の中心地としての役割と機能を持ったまちであります。

今でもその位置付けは変わりません。先人がつくり繋いできた、開国の偉人たちが賛美した「自然とまちと人の美しさ・快活さ」のまちづくりのDNAを私たちは大切にしなければならぬと思います。ペリーグッドならぬペリーグッドというキャッチコピーがありました。

ペリーに褒め称えられた「美しいまち」が下田の姿であり、この精度を上げていくことが、下田が目指すまちづくりであります。「美しいまち」とは何かを皆で考え、皆で創っていきましょう。

下田市長 楠山俊介